

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600466		
法人名	社会福祉法人 慧誠会		
事業所名	グループホーム 帯広けいせい苑 りんごの木		
所在地	帯広市新町西6丁目55		
自己評価作成日	令和 5年9月25日	評価結果市町村受理日	令和 6年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&Jig_yosyoCd=0194600466-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和5年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方がどこまで出来て、どこをお手伝いすれば、一人一人が輝き、いつも笑顔で満足感が得られるかを考えて日常の中で活動やお手伝いを行っている。
 認知症対応型施設として、解りやすい声掛けや不快にならない対応を考えながら関わらせていただいている。ご家族にも利用者の方の今の現状をお伝えし理解して頂く事で、利用者の方への理解にも繋がったと感じる。
 りんごの木で利用者のコロナの感染者が出なかったことは職員の頑張りだとも感じる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、JR帯広駅近くの新築住宅地にあり、近くの河川敷は季節毎に木々の変化を楽しめる散歩コースとなっている。母体法人は帯広市を拠点として児童施設や福祉施設等を多く運営しており、法人内では職員育成や勉強会など協力体制が築かれている。木造平屋建てで事業所内は明るく清潔で、利用者は1日のほとんどを共用空間で過ごしている。利用者の平均年齢や平均介護度は低く、一人ひとりのできることややりたいことを丁寧に聞き、やりがいと達成感を持ってよう支援している。利用者の家族からも多くの職員が楽しそうに仕事をしている、利用者に対して家族のように接していると評価されている。利用者も職員も共に日常的な共同生活を楽しみながら支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をもとに年度計画をたて、利用者・ご家族の為に職員同士が日々考え、実行し、より良い生活が送れるように実践している。	法人の理念を基にその人らしく役割を持つてできることを継続して暮らしつづけられるように支援している。管理者と職員が理念を共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	利用者との散歩中に、挨拶をさせて頂いたり、運営推進会議時に町内会長様とは少ない時間ではあるが、交流を図っている。	町内会活動はまだ再開していないが、運営推進会議等で交流を図り情報収集している。利用者や職員は散歩時などに挨拶を交わすなど地域交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度もコロナ禍でなかなか地域貢献できていない現状はあるが、入居の申し込みや、相談などでお話をさせて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和4年度は書面にて利用者の様子をお伝えし、令和5年度は8月に対面開催9月に書面開催を行い情報共有をさせて頂いている。	運営推進会議は年6回開催している。8月には対面での開催で充実した意見交換を行っている。メンバーからの要望やアドバイスを検討し改善へ繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査などで協力関係を持つ事が出来たと思う。	市担当者とは介護保険更新時の認定調査や事故報告書提出時などに相談をするなど関係性を築いている。生活支援課では入居時や病院受診時に連絡を取り利用者の状況を共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。ケアや対応については日々、職員同士気に掛けたり話し合いをし確認しあっている。	身体拘束や不適切ケアについては、日々職員同士声をかけし適切なケアをするよう務めている。無断外出の利用者には玄関掃除をしてもらうなど外気欲の機会を多く持ったり、ドライブに行くなどして気持ちを満たすケアに努めている。人感センサーでの見守りは最小限にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いやケアなど職員間で気を付け対応するようにさせて頂いている。		

グループホーム 帯広けいせい苑 りんごの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に携わる機会は今年度なかった。自立支援事業についても学ぶ機会がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時のなるべくお手間をかけない様に必要最低限に説明させて頂いている。遠方のご家族には、職員の名前のわかるものをお渡しし、TELの時に困らない様に対応させて頂いた。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは面会時・連絡時に要望や意見など確認している。その際に利用者の最近の様子などを伝えている。	毎月、家族に利用者の様子やイベントなどを写真付きの手紙で伝えている。家族からの要望も聞き入れ小さなことでも実現するように務めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営自体を変えるようなことは無かったが、行事など職員が主体的に行動して下さっている。	不定期に職員会議を開催し、職員からの意見や提案を共有している。職員は目標シートを作成し管理者と年度の前後で面談し働き方への要望などを伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の様子などは報告するようにしている。有給や公休は摂りやすい環境にあると思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修やその他の研修に参加して頂き、知識等が増える様に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会にて管理者は、交流を持っているが、他職員が交流を持つ機会は設けていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に直接本人とお話しし、本人の要望を聞き、今までの生活のリズムを崩さないようにできるだけご要望にそった対応をする様になっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に直接ご家族の方とお話しし、今までの生活状況、ご本人の事ご家族の思いを聞く事に重点をおいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」の表情や、本人・ご家族からお話させて頂いたことから支援・サービス・提供する事に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で職員が、ではなく、職員と一緒にを心がけご本人のできる事、得意なことを一緒にして頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態の変化が見られた際などに、報告し、以前にもあったことか・対応の仕方など情報共有している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍での制限が少しずつ減っていき、ご本人に行きたいところなど確認したり馴染みの理髪店に行くこと、ホームに来ている理美容の方と繋がりがあある利用者の方もいるので理美容の方との関係を続けていけるように支援している。	訪問理美容だけでなく、コロナ禍前まで通っていた馴染みの理美容室へ行くことを再開している。家族や友人との居室での面会も短時間であるが支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の中に職員が入り、一人の方だけではなく全員が楽しめる様に支援させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人のフォローは出来ていないがご家族や本人が困らない様に関係各所に情報提供は行わせて頂いた。					
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に希望や要望を確認しご本人の暮らしやすいように支援している。	言葉やしぐさなどを汲み取り希望や意向を把握し、望むことをサポートしている。実現できた時には達成感や満足感を一緒に共有している。				
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前働いていた頃の話、趣味や特技などの話を聞き本人の事を知り本人の言葉を聞ける様に努めている。					
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日により、出来る事も変わってくるためその時その時の状況に応じ、寄り添いながら関わらせて頂ける様に努めている。					
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを使用したり、チーム会議などを行い職員同士話し合いながら確認しあっている。	定期的に、又は状態の変化時に介護計画の見直しを行っている。モニタリングは毎月行い職員間で共有している。新しいケアプランは家族へ電話で説明し郵送している。職員は個人毎のファイルで共有している。				
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や接し方、利用者の反応、表情などを日誌や日々録に記入し情報を共有している。					
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内で様々な職種が存在する為、他職種連携が行えていると思う。					
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーなどへは行き買い物などを利用者と一緒に楽しむことが出来た。					
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望を聞き、かかりつけ医と薬の調整などを検討し支援をしている。必要な方には血圧表などを持参している。	大半の入居者が従前のかかりつけ医を受診している。定期的に職員が同行し受診している。服薬は一化して職員が1日分を前日に準備している。				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師が出勤しているのでその時に相談し、何か急を要する事があった際は、他事業所の看護職員に相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時利用者が困らないよう細かく情報を伝えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書の中の重度化指針の説明をさせて頂いている。その中でここでの生活の限界などもお話ししながら納得して頂いている。又系列のGH同士の会議により退去の基準など考えている。	入居時に重度化の指針について支援の限界を説明し、本人・家族の同意を得ている。状況に応じて法人内の特養などへの移行提案などを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や救急時その場の職員同士が話し合い対応し、その後会議などで再度話し合っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力は出来ていないが、同法人との協力体制は出来ている。避難訓練を年に二回実施し、防災への意識付けを行っている。	火災を想定して避難訓練を行っている。地震等を想定し歩行可能な利用者900メートル離れた小学校の避難場所まで徒歩での訓練も行っている。3日分の食料や水を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方一人一人にあった対応をし、言葉にも気を付け、丁寧な言葉、対応をさせて頂いている。	トイレでの丁寧なケアや入浴への同性介助などできる範囲で対応している。介護のケア記録簿冊はプライバシーに留意し施錠して保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がわかりやすい言葉を使うよう意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、本人のペースに合わせ、本人の希望は取り入れられる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛をとかしたり・本人が持ってこられたヘアバンド・ヘアゴムを使用し身だしなみやおしゃれを支援している。服などが汚れた際にはすぐに交換している。		

グループホーム 帯広けいせい苑 りんごの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすい大きさにカットしたり、おにぎりがいいと言われる方もいるので一人一人に合った食事を提供させて頂いている。利用者の方と一緒にテーブル拭きや茶碗洗いをしている。又、行事がある時には、利用者と一緒に選び、好きなものを食べて頂くようにしている。	外部業者にメニューと食材の手配を依頼し事業所内で調理している。野菜の皮むきや配膳などできる範囲で利用者がしている。行事食は希望を受けて提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立を使用しバランスのとれた食事を提供している。一日の水分量計算し少ない時などは本人の好きな飲み物など提供し、支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアできる方はご自身で、磨き残しやご自身で難しい方は職員が支援させて頂いている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パット・パンツの検討。排泄パターンの把握、排泄チェック表をみながらの声掛け、誘導し失禁が無いよう行う様になっている。	自立している利用者が多く、トイレへの誘導利用者は2名、着脱やパット交換支援者が2名である。ほぼトイレでの排泄を支援している。排便コントロールが困難な場合は水分・運動・オリゴ糖などで自然排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な食事・適度な運動を心がけなるべく自然排便を心がけている。排便が中々ない方は通院時医師と相談し対応している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大体の曜日は決めているがご本人の希望に添える様にその時その時で変更している。入浴時皮膚トラブルの確認、一対一の対応なので普段聞けない話みんなの前では言いにくい話など情報収集の場として大切にしている。	週2回を基本に入浴を楽しんでいる。自立している利用者にはのんびり入浴してもらっている。拒否する利用者には声かけを工夫するなどして楽しんで入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるよう生活のリズムを変えないよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院記録や薬情も確認し職員で情報共有し、副作用なども確認している。薬の事で何かあればすぐに医師や薬剤師に確認し支援している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることは継続して頂き、昔の仕事、趣味などを生かした活動をして頂いている。			

グループホーム 帯広けいせい苑 りんごの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍もありたくさんの外出の支援は出来ない。少しずつではあるがスーパー・ドライブや散歩、散髪など状況を見て外出している。	利用者の気分や天候に合わせて近隣への散歩など外出できるようになってきている。家族の協力で書道の展覧会に出かけている。買い物や地域のイベント、お祭りなども今後計画している。	一人ひとりの希望に沿った外出支援を行いたい。事業所内での時間が長かったため希望する場所への外出支援が叶うよう期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の方に確認し、了承を得て使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話できる様支援している。こちらからご家族の方に連絡した際本人や家族の方に確認し電話でお話したりもしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	席の配置などは利用者同士の兼ね合いも考えている。イベントなどでその時に合った飾りつけを利用者と一緒に行っている。	共用空間に2台のエアコンがあり猛暑の夏の温度調整を行うことができている。明るい居間で自分の気に入った場所のソファに座りTVを視聴したり会話をして楽しんでいる。就寝以外はほとんど居間で過ごす利用者が多く居心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースではあるが安全かつ他者との交流が持ちやすいよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物を持ってきて頂いたり、施設で用意したりご本人にとっていいものを使用いただいている。又、出来るだけ以前過ごしていた所と同じような家具の配置を行う様にしている。	入居時には自宅で使用していた馴染みの椅子やタンス、ベットなどを持ち込んでいる。日用品やTV、冷蔵庫なども設置している利用者もいる。壁には家族写真などを貼って居心地良い空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症の度合いによって理解の具合が変わってくるので、出来る事・分かる事を一緒にし自立支援に努めている。		